

多文化共生月間～外国人と医療～

私ども熊本市国際交流振興事業団では、毎年2月を「多文化共生月間」と位置付け、日本人、外国人市民が互いに文化の違いを理解、尊重し共に暮らしやすい社会を作っていくために何が必要かを皆様に考えていただく機会として、パネル展(期間:2月1日～2月28日、会場:熊本市国際交流会館1Fエントランス)や、シンポジウム(2月8日を予定)を開催いたします。今回のテーマは「外国人と医療」です。熊本市においては、在住外国人数の増加、定住・永住化が進展、さらに高齢化が見られる中、「医療通訳」は大きな課題の一つとなってきます。日本語が話せない外国人市民が病院で受診する際にこういった言語支援が必要なのか、本章では、その医療通訳活動に取り組んでいる「メディカルサポートくまもと」代表の最相博子氏に、海外や日本における医療通訳の現状をお伝えいただきます。

医療通訳の取り組み

メディカルサポートくまもと

代表 最相博子氏

スイスやアメリカのような移民国家ならずとも、外国人居住者が増えている現状において、社会ニーズの一つとして医療通訳が挙げられます。これは、必ずしも在住の外国人の方に限りませんが、その国の言語があまりよくわからない方が医療機関へ行った際、医師、看護師、薬剤師などの説明や指示が、はっきり理解できず、きちんとした医療が受けられないという状況をなくし、母語住民と同じ質の医療を受けられるよう、第三者の通訳者が通訳をするシステムです。スイスやアメリカ、オーストラリアなどでは医療通訳制度が既にきちんと整備されています。

日本でも、神奈川県「MICかながわ」(特定非営利活動法人多言語社会リソースかながわ)というNPO法人が2002年に設立され、医療通訳派遣事業を始めています。県医師会、県病院協会等の協力のもと、専門知識と技能を有する医療通訳スタッフを養成、登録し、協定医療機関の依頼を受けて通訳を派遣するシステムを運営しています。初年度の派遣件数は269件、10年を経過した今年度は4,000件近くあったとのこと。対応言語は12言語に及びます。

2006年このMICかながわが中心となり、「第1回医療通訳を考える全国実践者会議」が開かれ、私はこの会議に参加し、MICかながわ以外にも日本のあちこちに医療通訳派遣制度が構築されていることに驚きました。早速、県国際協会の助成金を利用して医療通訳の勉強会を実施しましたが、病院側の協力を得ることが難しく、制度構築には至りませんでした。しかし要請がないわけではなく、現状は、要請がある時に、熊本市国際交流振興事業団の協力のもと、通訳者を派遣するという形が続いています。

今回、「多文化共生センターきょうと」が主催する「第4回医療通訳を考える全国実践者会議」に出席、活発な活動をしている他県の現状などをしっかり学ぶことができました。医療通訳というのは、当然重篤なケースもあり、通訳の質が大きく問われるものであること、医療機関の協力なしにはその制度構築、またスムーズな派遣が行えないこと、行政の関与の必要性など様々な観点から考えてゆかねばならないことを身に染みて感じました。

私がこれまでに関わった医療現場の通訳には、重篤なものに発展する可能性のあるケースは皆無でしたが、事業団が関わった中国語のケースにはそのようなものがあつたと

聞いています。全国の症例では、がんの告知に立ち会う場面などもあり、国によってはがんの告知をしないのが通例である場合など、その国の文化、社会状況を知らずに通訳をするとんでもないことになるケースもあります。医療の専門用語、知識だけでは不十分で、やはり通訳を必要とする方の国の背景なども幅広く学んでいかなばなりません。

かつては、医療通訳ボランティアという表現が多く使われていましたが、今回の会議では、ほとんど使われず医療通訳者あるいは医療通訳サービスという名称が使われていました。このことは、単に名称の問題ではなく、やはり前にも述べました通訳の質ということと大きな関わりがあると思います。言葉ができ、研修さえすれば誰でもできるというものではなく、ある一定の条件をクリアした方が活動できるという認定制度の必要性もあります。すでにスイスなどヨーロッパの例では認定制度があり、アメリカ、カリフォルニア州でも来年7月には認定通訳制度が実施されるそうです。熊本の現状を考えると、このことはまだまだ先の話のように思いますが、通訳の質に関しては最初から念頭に入れておくべきでしょう。

また通訳が必要となる言語ですが、英語に関しては、英語を理解する医師が多いため、何とかなっているというのが熊本の現状のようですが、中国語、韓国語に関しての需要はすでにかなりあるように思います。

これからは熊本においても医療通訳の制度を立ち上げ、在住、旅行者を問わず、日本語でのコミュニケーションが困難な方への医療通訳サービスの提供ということを考えていかなばならないと強く感じています。これまで私どもメディカルサポートくまもとが、細々とではありますが、培ってきた経験を軸に、質の良い医療通訳サービスが提供できるよう、関係機関、団体と連携を深め、医療通訳の研修に力を入れていきたいと思っています。他言語でのコミュニケーションが可能な方どうぞご協力をお願いいたします。

連絡先 メディカルサポートくまもと

T E L : 090-2968-4971(最相)

E-mail : h2i3r2o1k2o@yahoo.co.jp